



▲竣工記念碑(新堂4丁目・新堂公園) 令和4年1月建立



▲遺跡地の調査 I区、(公財)大阪府都市整備推進センター提供



▲現地説明会の様子(平成31年2月16日) 多くの考古学ファンが詰めかけ、調査員の説明に聞き入る。松原市教育委員会提供

## 新堂4丁目土地区画整理事業 大型商業施設建設に伴い発見

大型商業施設のイオンタウン松原が、十月上旬、華々しくグラウンドオープンしました。新堂4丁目の国道三〇九号沿い東側です。多くの人々がそれぞれお目当てのお店で、買い物を楽しまれています。街にいつもの賑わいをもたらされました。

新堂4丁目地区は、もともと農地が主体でしたが、国道三〇九号と市道新堂南線に面する交通結節点でした。そこで、市は当地が交通利便性に優れたポテンシャルの高い地区であることから、松原市都市計画(マスタープラン)において「都市型複合拠点地区」に位置づけたのです。

平成二十五年以来、地権者の方々により幾度となく、まちづくり勉強会が持たれました。平成三十年七月六日、松原市新堂4丁目土地区画整理組合の設立が認可され、「南部大阪都市計画事業松原市新堂4丁目土地区画整理事業」がスタートしたのです。施行面積は、一〇・〇三ha。事業は五年の歳月を経て、令和四年一月、「竣工記念碑」がイオンタウン松原の東側、新たに造られた新堂公園に建てられ、除幕式が行われました。本年一月には、土地区画整理事業が完成したことにより、組合が解散されました。

さて、区画整理事業が行われた新堂

四丁目を含む周辺地域は、新堂遺跡とよぶ旧石器時代から近世に至る遺跡です。このあたりの標高は、二十四mを測ります。過去に、遺跡の北部の新堂一丁目などで調査が行われており、二〇〇〇年前の弥生時代やそれ以降の古墳時代の流路、弥生土器、焼土塊などが見つかっていました。

今回の整理事業にあわせて、同地区内の約九五〇〇㎡を発掘調査することになりました。地区の北をI区、南をII区の二箇所に分け、平成三十年九月から調査が行われました。松原市教育委員会の指導のもと、(公財)大阪府文化財センターが担当しました。

I区では、弥生時代後期から古墳時代前期の土器を含む溝のほか、掘立柱建物や土坑などを検出しています。弥生時代後期の遺物を含む井戸や、竪穴建物、柱穴列なども見つかっており、集落があったことが推測されます。

同時に、すぐ西側からは弥生時代末期から古墳時代初期ごろの竪穴建物六棟も見つかりました。竪穴建物は、五〜六mの方形や円形で、内部施設として壁溝や炉が確認されています。ここにも、集落域が広がっていたことがわかったのです。

一方、II区でも弥生時代後期末から古墳時代初期と思われる遺構面から蛇行しながら流れる流路や溝、柱穴や土坑などが検出されました。土坑や柱穴からは、古墳時代の土師器

の甕や高坏が出土しています。I区の南西側にも、集落が形成されていたようです。

今回の調査によって、これまで見つかっていた弥生土器や、弥生時代の石器、さらに、古墳時代の円筒埴輪、奈良時代の円面硯をはじめ、中世の土器から、新堂遺跡では、弥生時代以降一〇〇〇年前の中世まで綿々と人々が集落を形成して生活していたことがわかったのです。

平成三十一年二月、こうした調査成果について、松原市教育委員会は大阪府文化財センターとともに、一般の方々に公開することを目的に現地説明会を開催しました。公開場所はII区の南側で、建設されたイオンタウン松原の南端近くにあたります。

当日は天候にも恵まれ、約一三〇人の方々が見学に訪れました。住居址や水路址などで発見された石器や土器も展示され、調査員から農地の下に眠っていた新堂遺跡の説明に聞き入っていました。

【参考文献】松原市文化財報告第8冊・大阪府文化財センター調査報告書第303集「松原市新堂遺跡」二〇二〇年六月／松原市新堂4丁目土地区画整理組合「黎明」(松原市新堂4丁目土地区画整理事業事業誌)二〇二三年三月／松原市教育委員会・大阪府文化財センター「新堂4丁目土地区画整理事業に伴う新堂遺跡現地公開資料」平成三十一年二月